

首都大学東京 人文・社会系、人文科学研究科		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	少人数教育を実践しているのため、学生による授業評価はなじまない。研究者養成を主眼とする大学院の場合、修士論文、博士論文といった成果で間接的に評価されるべきものとする。
	研究会・講演会 ・セミナー等	学部人文・社会系、大学院人文科学研究科の合同で、FD講習会と座談会を開催した。FD講習会（平成20年1月31日（木）午後5:00～6:00）は基礎教育センター助教申本剛 先生による「大学院FD義務化の背景と初動上の課題－人文科学の場合－」と題した講演会が行われた。座談会（平成20年1月24日（木）午後3:00～4:30）では、人文の15から成る各専攻のFD委員が、それぞれの専攻の特徴、教育の現状を話し、共通の理解を深めるとともに、情報交換、意見交換を行った。
	外部評価等	特記事項なし。
今後の予定・展望	大学院生の教育意欲を高める試みについて、新たな企画を募る。	

<p>取り組みの現状</p>	<p>学生による授業評価等</p>	<p>①昨年度に引き続き、本年度も、履修登録者数が20名以上の全専門教育科目（演習、卒業論文等を除く）を対象として、学生による授業評価アンケート（マークシート及び自由記述）を実施した。その結果は、法学系FD委員が集計し、各教員にフィードバックされ、来年度以降の教育活動の改善に役立てられる予定である。</p> <p>②法学系教授会において「成績評価分布基準」を学系内の暫定的な申し合わせとして決定した。</p> <p>③法学系教授会において、来年度以降、全法学系専門科目（演習、卒業論文等を除く）について、「成績評価基準」（期末試験やレポート、出席点等の評価の割合）をシラバス（『法学系授業概要』）にパーセンテージで表示することを確認した。"</p>
	<p>研究会・講演会・セミナー等</p>	<p>自己点検・評価委員、FD委員、基礎教育部会委員を中心とする「法学系FD委員会」（「社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会」と合同）を設立し、適宜「法学系FD会議」を開催し、授業評価アンケートの実施をはじめ、法学系FD活動のありかたについて検討している。</p>
	<p>外部評価等</p>	<p>第三者評価機関による大学機関別認証評価に備え、自己点検・評価委員会での議論を踏まえて、「自己評価書」の試行版を作成した。この作業の過程で、法学系として不足しているFD活動（教員研修やRA研修、オフィス・アワー等の学習支援体制の整備等）が、ある程度浮き彫りになったと考えている。</p>
<p>今後の予定・展望</p>	<p>①授業評価アンケートに基づいて、個々の教員が自らの担当する授業や教育環境の改善を図るのはもちろんのこと、さらに進めて、各専門領域の教員間で、カリキュラム全体や講義分担のありかたについて、定期的に検討・改善する機会を設け（FD会議ないしスタッフ・ミーティング）、法学系全体の教育効果の改善・充実につなげたいと考えている。</p> <p>②今年度決定した「成績評価分布基準」は暫定的かつ原則的な基準であるが、今年度の成績評価状況を把握し、来年度以降も同じ基準を継続するかどうか、改めて検討してゆくことにしたい。</p> <p>③成績評価に関する不服申立手続についても、その整備の可否を含めて、検討してゆきたい。</p> <p>④来年度、十分なFD予算措置がなされれば、法学系として講演会等を開催するなど、積極的に教員・RA研修の機会を確保してゆきたい。</p> <p>⑤なお、学系の教育内容・教育環境をさらに改善するためには、優秀な教員を採用するための人事枠・制度の拡充、法学系教務課の事務体制の整備、これらを可能にする予算措置等を至急講ずる必要があると考える。</p>	

社会科学研究科 法学政治学専攻		
取 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	極めて少人数のため、学生による授業評価にはなじまない。授業の効果は、研究者養成を主眼とする大学院の場合、修士論文・博士論文といった成果で間接的に評価されるべきものであると考える。
	研究会・講演会 ・セミナー等	<p>(全体)</p> <p>自己点検・評価委員、FD委員、基礎教育部会委員を中心とする「法学系FD委員会」（「社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会」と合同）を設立し、適宜「法学系FD会議」を開催し、そこで社会科学研究科法学政治学専攻のFD活動のありかたについても検討している。</p> <p>(法律学分野)</p> <p>①スタッフ・院生全員が参加する「法律学総合演習」を定期的で開催し、研究・教育水準の向上に努めている。今年度は、新任教員及び博士論文を完成させた教員の研究報告が行われた。</p> <p>(政治学分野)</p> <p>①3月・8月を除く毎月、スタッフ・院生全員が参加する「政治学総合演習」を開催し、研究・教育水準の向上に努めている。</p> <p>②定期的にスタッフミーティングを実施し、大学院の教育及び研究指導に関する意見交換を行い、実質的なFD活動を行っている。</p> <p>③これらの活動状況については、総合演習40周年（1995年）、50周年（2005年）の区切りに記念誌を刊行し、外部に公表している。</p> <p>④2007年度から、新たに「政治学FD会議」を設置し、前期2回（4月、7月）、後期2回（10月、2月）開催した。政治学FD会議は、政治学分野に所属する全教員・院生で構成される。学期初めの回（4月、10月）では、教員が当期の講義・演習の概要・趣旨等を説明し、意見交換を行う。これを踏まえ、学期末の回（7月、2月）では授業目標の達成度等に関する情報交換を行うとともに、講義・演習に参加した院生との意見交換を行い、授業内容の改善に努めることとしている。この取り組みは、今年度の運用実績の検証も踏まえ、来年度以降も継続していく予定である。"</p>
	外部評価等	<p>①2005年度に、法学政治学専攻の設置申請に関連して、内部においてスタッフの教員審査を行い、その上で外部委員による評価を受けた。</p> <p>②第三者評価機関による大学機関別認証評価に備え、自己点検・評価委員会での議論を踏まえて、「自己評価書」の試行版を作成した。この作業の過程で、社会科学研究科として不足しているFD活動（教員研修やRA研修等）がある程度浮き彫りになったと考えている。"</p>
今後の予定・展望	<p>①第三者評価機関による大学機関別認証評価が義務づけられていることに加え、2007年度から大学院FDの実施が求められることから、法律学・政治学総合演習等を中心とした自己点検・評価およびFD活動のさらなる充実化に向けた検討を行う。</p> <p>②特に、来年度、十分なFD予算措置がなされれば、法学系と合同で講演会等を開催するなど、積極的に教員・RAの研修の機会を確保してゆきたい。"</p>	

社会科学研究科 法曹養成専攻		
取り組 みの 現 状	学生による授業 評価等	2004年度設置以降、各年度とも学期ごとに、法科大学院の教育等の改善及び充実のためのアンケート調査を、すべての法科大学院生を対象に実施している。このアンケート調査において、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、あわせて授業内容や方法、学習支援体制（オフィスアワーなど）、施設や整備などに対する要望などを尋ねている。授業評価のほか、授業に関する要望について当該科目の担当教員にフィードバックし、教育活動等の改善に役立てている。また、このアンケートで挙げられた要望等をFD会議で検討し、学習環境の改善に役立てている。
	研究会・講演会 ・セミナー等	①FD会議の実施 毎月1回、授業を担当する教員から構成されるFD会議を開催し、学生の学習状況や授業方法などについての情報の共有化を図るとともに、法科大学院における教育等についての意見交換を行っている。さらに、各専門領域ごとのFD会議を適宜開催している。 ②各種の団体が実施するセミナー等への参加 法科大学院教育、新司法試験、第三者評価などに関して、法科大学院協会、大学評価・学位授与機構、日弁連等の各種団体が実施する検討会やセミナー等に参加している。
	外部評価等	2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。また、2004年11月、2005年7月に文部科学省による法科大学院設置年次計画履行状況実地調査を受け、さらに2006年11月に、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況面接調査を受けた。なお、法科大学院認証評価を受けることが法定化されているので、その準備を不断に進めている。
今後の予定・展望	上記のような取り組みを継続するとともに、2008年度の学位授与機構による認証評価に向けて、本格的な準備を行っているところである。 特に、法科大学院認証評価機関による認証評価およびそれに向けた準備には、人的体制を整備する必要があることは、他の大学及び文部科学省による法科大学院設置計画履修状況の面接委員からも指摘されている。 したがって、認証評価に向けて、優秀な教員を採用するための人事枠・制度の拡充、事務体制の整備、これらを可能にする予算措置を至急講じなければ、準備作業を円滑に遂行することは極めて困難である。"	

経営学系		
取り組みの現状	学生による授業評価等	本年度は、後期開講科目を対象に、学生による授業改善アンケートを実施した。本年度の調査では、昨年度に実施したアンケート結果を吟味し、アンケートの11項中2項目を変更・1項目を削除した新しいアンケート項目で実施した。アンケートの集計は20年2,3月に行う予定である。
	研究会・講演会・セミナー等	平成20年3月に、海外の研究者(2人)を招聘し、大学院生・学部生向けに、大学院(学部上級)レベルの専門科目講義を英語で実施する。
	外部評価等	特になし
今後の予定・展望		本年度実施したアンケート結果を、各教員にフィードバックする他、今後の改善に活かしていきたい。

ビジネススクール		
取り組みの現状	学生による授業評価等	本年度は、後期開講の専門講義科目について、学生による授業改善アンケートを実施した。さらに、カリキュラムや施設の充実度などのビジネススクール全体について、学生にアンケート調査を実施した。
	研究会・講演会・セミナー等	平成19年12月に東京都都民ホールにて公共経営特別セミナー「公共経営の戦略とリスクマネジメント」を実施した。平成19年12月に、大学院生を海外での国際学会に派遣・参加させた。平成20年3月に、海外の研究者(2人)を招聘し、大学院生・学部生向けに、大学院(学部上級)レベルの専門科目講義を英語で実施する。
	外部評価等	文部科学省の重点支援事業「大学院教育改革プログラム」において、経営学専攻の「公共経営の人材育成プログラム」が採択され、平成19年度～21年度の3年間、重点的な財政支援を受けることになった。
今後の予定・展望		本年度実施したアンケート結果を、各教員にフィードバックする他、今後の改善に活かしていきたい。

都市教養学部理工学系数理科学コース		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業評価等	(1) 前後期の2回にわたり理工系基礎教養科目の授業アンケートを全学FD委員会のもとで実施した。また、各授業の成績分布表を作成し、成績評価基準の基礎となるように理工学系FD委員会で話し合った。(2) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケートを前後期の2回にわたり実施した。(3) さらに、数理コースでは、基礎教養科目、専門科目ともに成績分布のデータをコース内スタッフ全員で共有し、それによって各科目の特性を尊重した上で、自然に成績のバランスが取れることをめざしている。
	研究会・講演会・セミナー等	数理科学コース内で、SE, TE実施の改善案、授業改善への生かし方、成績評価について意見交換をした。
	外部評価等	外部評価に関しては、平成19年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。
今後の予定・展望		(1). 理工系基礎教養科目では、昨年度の受講生が120-160人だったクラスは120人以下に減らして円滑な教育を行っている。(2). 基礎教育では、責任者を決めて、クラス毎の平均点や状況について恒常的に情報、意見交換を行っている。(3)メールによっても、SE, TEの実施方法、授業改善への生かし方の意見、提案を集め、多くの意見が集まっている。

理工学研究科数理情報科学専攻		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業評価等	理工学研究科の授業評価の一環として数理情報科学専攻のSEを実施中である。大学院の講義、セミナー、教員、ほかの大学院生との関係、設備などに関して聞き取りアンケートの形で行っている。普段大学院生と接していても、聞き取りアンケートで改めて聞いてみると、新しい情報が多く得られる。アンケート結果のまとめを作りコースのスタッフ全員で共有する予定である。
	研究会・講演会・セミナー等	数理科学コース内で、SE, TE実施の改善案、授業改善への生かし方、成績評価について意見交換をした。
	外部評価等	外部評価に関しては、平成19年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。
今後の予定・展望		大学院生と教員の懇談会を定期的に行っていて、大学院生の意見要望を聞き、実際に、院生室の施設整備などを行って対応している。今後も続ける予定である。

都市教養学部理工学系物理学コース		
取 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	<p>(1) 前後期の2回にわたり理工系基礎教養科目の授業アンケートを全学FD委員会のもとで実施した。また、各授業の成績分布表を作成し、成績評価基準の基礎となるように理工学系FD委員会で話し合った。なお、物理学コースでは、前年度のアンケート調査をもとに「物理通論」の開講コマ数を増加させ、受講学生のニーズに配慮したクラス編成の改良を行った。これらがどのように今回のアンケート調査に反映されたかを分析し、改善があったと評価した。</p> <p>(2) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケートを前後期の2回にわたり実施した。その結果は、平成20年2月始めの時点において、集計中である。</p>
	研究会・講演会 ・セミナー等	<p>(1) 「大学院GP：物理と化学に立脚し自立する国際的若手育成」事業を化学コース・物理コースの共同事業として実施し、その企画に学部生も多数参加した。また、この大学院GP事業の一環として、教員を対象としたFD講演会「講義を楽しむ」を企画し、他大学の教員に依頼して模範講義の実演を受け、魅力的な講義をするための講習を受けることを計画している。</p> <p>(1)物理学専攻の教授准教授の集まりにおいて特別に時間を設け、専攻全体のFDの進め方や成績評価について話し合った。</p>
	外部評価等	<p>外部評価に関しては、平成18年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。</p>
今後の予定・展望	<p>1) 今年度、前期成績配布直後に、専攻内カリキュラム委員会メンバーが、新入生全員に対して個別に、学習状況や生活面について面談を行った。さらに後期途中にも、修学上アドバイスが必要であると判断される新入生10名程度に対して再度面談を行った。その結果、物理学専攻では、年間を通して学生を丁寧にケアすることの重要性を認識し、来年度からよりきめ細やかな「担任制」を導入することを決定した。</p> <p>(2) 来年度授業編成において、(i)入学時より教員とのつながりを深くするために、1年次に受講する「物理学セミナー」では、多数の教員との交流を持ちうる機会を設定した。(ii)また、アンケートや面談で顕在化した数学の基礎学力の向上のため、「物理数学」の授業を、以前より早い段階で受講できるようカリキュラム編成を改善した。</p>	

理工学研究科物理学専攻		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	<p>1)今年度から、大学院FD活動の一環として、学生による授業評価を2回にわたって実施した。その結果の分析は現在進行中である。全体としては、学部学生と比べると、大学院生の授業に対する満足度は高い。しかしながら、授業の難易度に対する評価にばらつきがあることや、専門領域外の基礎的な学力向上のための授業の必要性など、さまざまな改革が必要であることなどが既に判明している。</p> <p>2)「大学院GP：物理と化学に立脚し自立する国際的若手育成」事業を分子物質化学専攻・物理学専攻の共同事業として実施し、大学院GP事業の一環として多くの学生がTAを体験する機会を得た。これに対する院生からの評価も上述のアンケート調査の一環として行った。学生実験および演習の補助による指導の体験は大きな収穫であると位置づけられ、今後も一層の充実を図りたい。そのためには、より組織だった教員の指導、すなわちTA実施前のガイダンスや事後の評価などを盛り込む予定である。</p>
	研究会・講演会 ・セミナー等	<p>1)大学院GP事業で国際シンポジウムを開催すると共にその中に学生のポスター発表を組み込み、英語で発表する機会を作った。また、大学院GP事業では、学生が外国に行って英語圏で英語と化学・物理を勉強する機会も設けており、若手育成事業として学生に好評であった。</p> <p>2)さらに、化学と物理では、大学院学生キャリアセミナー、倫理セミナーをそれぞれ外部講師2名を招聘して実施し、院生、教員両者の意識啓発に努めた。結果は、院生から非常に好評であり、科学倫理に関しては来年度は集中講義として授業科目に取り入れる予定である。</p>
	外部評価等	<p>外部評価に関しては、平成19年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。</p>
今後の予定・展望	<p>(1) 大学院GP事業をテコとして、上述のようなFD活動、TAやRAの充実による大学院生の学習環境と研究環境を整備する。また、この数年実施してきた国内・国外の大学との相互滞在を含めた交流をさらに深める予定である。</p> <p>(2) 大学院FDを含む報告書を作成する予定である。</p>	

都市教養学部理工学系化学コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	(1) 前後期の二回にわたり理工系基礎教養科目の授業アンケートを全学FD委員会のもとで実施した。また、各授業の成績分布表を作成し、成績評価基準の基礎となるように理工学系FD委員会で話し合った。さらに、化学コースでは、理工共通基礎科目の現状に対する話し合いの場をもち、学生数と教室の狭さについても議論した。 (2) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケートを前後期の二回にわたり実施した。化学コースに関しては、受講生が10人以下の授業以外の全ての科目の授業評価アンケートを実施したが、平成20年2月始めの時点ではその結果はまだ集計が終わっていない。
	研究会・講演会・セミナー等	「大学院GP：物理と化学に立脚し自立する国際的若手育成」事業を化学コース・物理コースの共同事業として実施し、その企画に学部生も多数参加した。また、この大学院GP事業の一環として、教員を対象としたFD講演会「講義を楽しむ」を企画し、他大学の先生をお願いして模範講義の実演を受け、さらに興味ある講義をするための講習を受けることを計画している。
	外部評価等	外部評価に関しては、平成19年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。さらに、卒業生に対するアンケート調査を行うことを計画している。
今後の予定・展望	(1) 理工系基礎教養科目の場合、1クラスの学生数が多いと学生の満足度が低下するので、学生数を80人以下に減らして円滑な教育を行うことを計画している。また、高校時代に物理の基礎を勉強していない学生に対する講義のあり方も検討しており、来年度はかなり改善されることを期待している。 (2) 今年度の終りに「理工学系学部専門科目の授業アンケート結果」の追跡調査を行うので、来年度は、各教員の改善結果をまとめることを計画している。	

理工学研究科分子物質化学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	今年度から、大学院FD活動の一環として、学生による授業評価を実施した。その結果、学部学生と比べると、大学院生の授業に対する満足度は高いことがわかった。また、発表形式の講義に対する評価が高く、学部学生と比べて、大学院生は自主的に勉強する習慣が身につけていることがわかった。さらに、大学院GP事業の一環として沢山の学生がTAとして働く機会を作ったので、学生が教育を体験し、また化学の基礎を説明するトレーニングをうけることが出来た。
	研究会・講演会・セミナー等	「大学院GP：物理と化学に立脚し自立する国際的若手育成」事業を分子物質化学専攻・物理学専攻の共同事業として実施し、この大学院GP事業で国際シンポジウムを開催すると共にその中に学生のポスター発表を組み込み、英語で発表する機会を作った。また、大学院GP事業では、学生が外国に行って英語圏で英語と化学・物理を勉強する機会も設けており、若手育成事業として学生に好評であった。さらに、化学と物理では、大学院学生キャリアセミナー、倫理セミナーなども実施して、大学院生の教育に努めた。
	外部評価等	外部評価に関しては、平成19年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。さらに、卒業生に対するアンケート調査を行うことを計画している。
今後の予定・展望	(1) 博士前期課程の修了基準を作成し、教育と研究のバランス等について話し合う。 (2) 博士後期課程の修了基準と博士取得の基準を明確にして、早期修了などが円滑に進むようにする。(3) 大学院FD活動をより一般化し、大学院生の学習環境と研究環境を整備する。また、国内・国外の大学との交流をさらに深める。	

都市教養学部理工学系生命科学コース		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	(1) 前後期の二回にわたり理工系基礎教養科目の授業アンケートを全学FD委員会のもとで実施した。また、各授業の成績分布表を作成し、成績評価基準の基礎となるように理工学系FD委員会で話し合った。 (2) 前期の理工系基礎教養科目の授業アンケート：アンケート結果をFD委員が中心となって分析し、その結果を教室会議で公表し、メール回覧し、授業改善を図った。 (3) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケート実施（後期）：生命科学コースでは実験、実習以外の科目について授業評価アンケートを実施した。平成20年2月初旬の時点ではその結果はまだ集計が終わっていない。 (4)本コースでまとめた「授業評価に関する考え方」（教員のための学生成績評価に関する留意点）を前後期終了時にメール回覧し、さらに教室会議で周知徹底を図っている。
	研究会・講演会 ・セミナー等	外部講師による講義技術に関するセミナー （2時間） カウンセリングに関する講習会・セミナー （2時間） （以上、大学院と共通）
	外部評価等	
今後の予定・展望		(1) - (4) の取り組みを今後とも継続する。

理工学研究科生命科学専攻		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	一部で実施中。
	研究会・講演会 ・セミナー等	「大学院 GP」の一環として次の事業を実施した。 教員の英語による教授力アップのための個別研修（希望者） マイクロアレイ等の教育研究指導力向上のための講習会開催 データベースに関する講習会への派遣 コーチング研修会（6時間）、外部講師による講義技術に関するセミナー（2時間） カウンセリングに関する講習会・セミナー（2時間）を実施した。
	外部評価等	学位授与機構による評価に向けて準備中
今後の予定・展望		学生による授業評価を拡大実施する予定である。 大学院GPの一環として、大学院FDを含む報告書を作成する予定である。

都市教養学部理工学系電気電子工学コース		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理工学系専門科目の授業評価の一環として電気電子工学コースのSEを実施した。 2. 前期は理工共通基礎科目と同じ内容のSEを実施した。 3. 後期は理工専門科目に対する質問項目を入れて、教員の熱意、授業テーマの受取られ方、および授業の難易度を調べた。 4. 自主的に学生実験のアンケート調査を実施し、フィードバックを行っている。
	研究会・講演会 ・セミナー等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子工学専攻会議にて、コース・専攻としてのFD活動方針に関し、話し合いを行った。 2. 理解しやすい授業を行うための工夫点や電気電子分野の教授法を共有するための講習会も実施予定である。
	外部評価等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の紹介、研究業績、学外活動及び研究内容を紹介するHPを公開し、さらに電気電子工学年次報告書（Web版）に学部授業アンケートなどの実施について記載し、外部への情報提供を進めている。
今後の予定・展望		<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成19年度の学科年次計画において、学部に係わるFD関連の推進目標を立て実施計画等を立案する予定である。

理工学研究科電気電子工学専攻		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理工学研究科の授業評価の一環として電気電子工学専攻のSEを後期に実施した。 2. 大学院の授業全般に対する学生の満足度、大学院ゼミナールに関する満足度、講義室の環境、研究指導に対する満足度などを調査した。
	研究会・講演会 ・セミナー等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子工学専攻会議にて、コース・専攻としてのFD活動方針に関し、話し合いを行った。 2. 理解しやすい授業を行うための工夫点や電気電子分野の教授法を共有するための講習会も実施予定である。
	外部評価等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の紹介、研究業績、学外活動及び研究内容を紹介するHPを公開し、さらに電気電子工学年次報告書（Web版）に大学院授業アンケートなどの実施について記載し、外部への情報提供を進めている。
今後の予定・展望		<ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度以降も大学院教育・研究指導に関するアンケートを継続実施する予定である。

都市教養学部理工学系機械コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	1. 理工学系専門科目の授業評価の一環として化学コースのS Eを実施した。 2. 前期は理工共通基礎科目と同じ内容のS Eを実施した。3. 後期は理工専門科目に対する質問項目を入れて、教員の熱意、授業テーマの受取られ方、および授業の難易度を調べた。 3. 担当している1, 2年生向け共通基礎科目のクラス編成等について、一昨年度の成績分布、学生アンケートなどに基づいてクラス数を増やし、授業満足度を改善した。
	研究会・講演会・セミナー等	「研究会」と呼んでいるが、各教員が自分の研究フィールドの紹介や最近の成果を報告し、質疑討論を行っている。また学生教育に関する討論もテーマとし、カリキュラム改善等についての意見交換を行っている。
	外部評価等	検討中
今後の予定・展望		機械工学コースは、旧都立大機械工学科・精密機械工学科と旧科技大機械システム工学科との合体で新発足し、スタッフの専門分野の偏りの是正や、旧大学での教育課程との調整等に多大な工夫を要する段階である。来年度に学生の所属も基本的に整理されるので、あらためて長期的な教育課程の整備に入る予定である。

理工学研究科機械専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	来年度からの実施を前提に、項目や評価対象科目について検討中。 とくに機械工学基礎分野を専門にかかわらず修得するための「推奨科目」として、設定している科目群についての評価等を重視している。
	研究会・講演会・セミナー等	「研究会」と呼んでいるが、各教員が自分の研究フィールドの紹介や最近の成果を報告し、質疑討論を行っている。また学生教育に関する討論もテーマとし、カリキュラム改善等についての意見交換を行っている。
	外部評価等	検討中
今後の予定・展望		機械工学専攻は、旧都立大機械工学専攻と旧科技大機械システム工学専攻との合体で新発足し、スタッフの専門分野の偏りの是正や、旧大学での教育課程との調整等に多大な工夫を要する段階である。来年度に学生の所属も基本的に整理されるので、あらためて長期的な教育課程の整備に入る予定である。とくに、修士課程（博士前期課程）の充実と進学者の確保をめざして、修士課程教育プログラムの抜本的見直しを行う予定である。

都市環境学部／都市環境科学研究科	
取 り 組 み の 現 状	<p>学生による授業評価等</p> <p>・当該年度の前期及び後期の各コース専門科目について、学部学生による授業評価アンケートを実施した。対象科目は非常勤担当科目および実験・演習系科目を除く科目をベースとしている。学生による「評価疲れ」を回避すべく、各コースによってメリハリをつけて授業評価対象科目を選定することとした。全科目を対象とするコース、大きな授業内容の見直しがあったものを重点的に行うコースなど、各コースでの工夫がみられた。アンケートは各科目の担当教員に対しても実施し、アンケート結果及び自由記述の内容を各担当教員に配布し、授業改善に努めている。なお、東京都立大学の授業評価については、科目数が少なく、受講者数が少ないことから原則として対象としてはずしたが、首都大学東京での読替科目があるものについては首都大該当科目として授業評価を行ったものもある。大学院についての対象科目は、受講人数が少ない科目も多く回答者が特定されるとの危惧もあり、各専攻からの申告に基づき対象科目を選定することとした。(都市環境)</p> <p>以下、各コースの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期の専門科目の授業評価を実施した。(材料化学) ・これまでの原則全科目実施から、1/3程度のサンプリング実施を3年サイクルで実施する方針に変更し、より効果的に学生からの価値ある意見の吸い上げを図るとともに、学生の「評価疲れ」を軽減した。(都市基盤) ・前期、後期の専門科目の授業評価を行った。対象科目の選定にあたっては、構成を大きく変更したものや従来授業評価を行っていなかった演習科目など、効果的な評価が行われるよう工夫した。(建築都市)
	<p>研究会・講演会・セミナー等</p> <p>・全学で実施するFDセミナーや講演会に参加し、授業改善のための情報収集を行っている。(都市環境)</p> <p>以下、各コースの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年前期に「環境調和化学基礎ゼミナール」を平成15年度から実施している。新入生に材料化学コースで学ぶモチベーションを持ってもらうことが授業の目的である。授業は実験・演習を含む6テーマで構成され、全ての教員がいずれかのテーマを担当する。授業終了後に学生にアンケートを実施している。80%の学生がこの授業に関心を持ち、その半数が入学後の学習意欲を持つ機会になったと答えている。(材料化学)
	<p>外部評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価の試行の実施(都市基盤) ・外部評価委員として、大学関係から2名、民間企業から2名に依頼し、学部教育関連資料を送付して文書による外部評価を実施した。現在、結果をレポートにまとめる準備を進めており、評価結果により必要な授業改善をはかっていく予定である。(地理環境) ・主要な講義・実習について、専門分野に近い教員1名、他の教授または准教授1名の計2名で授業参観を行ない、授業評価シートを提出している。評価シートは講義・実習担当者にも渡され、担当者は授業評価シートに対する回答(授業改善計画書)を提出する、というフィードバックシステムによって、授業・実習内容の質の向上に努めている。(地理環境)"
今後の予定・展望	<p>実験科目のように授業評価を行っていない科目では、現在一部で学生の意見をアンケートで集約しており、授業の改善を図っている。(材料化学)</p> <p>平成20年度で新大学の4年分のカリキュラムが一旦完成するのを受けて、問題点の把握、修正の必要性と方向性などの議論を深めていく。(都市基盤)</p> <p>授業評価を継続して行う予定である。評価時期、対象科目などにメリハリをつけた評価を行う必要がある。(建築都市)</p>

首都大学東京 システムデザイン学部		
取り組みの現状	学生による授業評価等	(1) システムデザイン学部で実施した下記科目についてアンケートを実施した。 前期・後期開講科目「専門科目」(非常勤講師科目を含む) ※演習科目・再履修科目・集中講義・南大沢キャンパス開講科目を除く (2) 前期・後期(予定)授業終了後に、「授業評価アンケート実施概要」をシステムデザイン学部・研究科HPに掲載した (参考) <前期授業> http://www.sd.tmu.ac.jp/index/news/1863.html
	研究会・講演会・セミナー等	
	外部評価等	
今後の予定・展望		(1) セミナーを平成20年度に実施予定 前期及び後期授業評価アンケート実施状況を検証する。学生・教員の自由参加による公開型セミナーを予定している (2) FD関連報告書を平成20年度に作成予定 前期及び後期授業評価アンケートの実施状況を検証する。

首都大学東京 システムデザイン学部		
取り組みの現状	学生による授業評価等	(1) システムデザイン学部で実施した下記科目についてアンケートを実施した。 前期・後期開講科目「専門科目」(非常勤講師科目を含む) ※演習科目・再履修科目・集中講義・南大沢キャンパス開講科目を除く (2) 前期・後期(予定)授業終了後に、「授業評価アンケート実施概要」をシステムデザイン学部・研究科HPに掲載した (参考) <前期授業> http://www.sd.tmu.ac.jp/index/news/1863.html
	研究会・講演会・セミナー等	
	外部評価等	
今後の予定・展望		(1) セミナーを平成20年度に実施予定 前期及び後期授業評価アンケート実施状況を検証する。学生・教員の自由参加による公開型セミナーを予定している (2) FD関連報告書を平成20年度に作成予定 前期及び後期授業評価アンケートの実施状況を検証する。

健康福祉学部		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	学部生2・3・4年の全ての科目について、前期・後期とも実施
	研究会・講演会 ・セミナー等	平成19年度健康福祉学部FDセミナー 平成19年10月29日16:00～18:20 北里大学医療衛生学部におけるFDの取り組み：梅田徳男教授 各学科のSE・TEアンケート報告
	外部評価等	なし
今後の予定・展望		平成18年度 FD報告書を電子媒体でまとめる。

人間健康科学研究科		
取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	人間健康科学研究科の前期終了にあたり、各系で実施された教科全体の評価を実施した。そのため、科目単位での評価は実施していない。
	研究会・講演会 ・セミナー等	平成19年度人間健康科学研究科FDセミナー 平成19年8月4日13:00～14:45 大学院FDの意義と必要性 上野 淳教授 大学院FD義務化の背景と初動上の課題 串本 剛助教 人間健康科学研究科 前期SEアンケート結果の報告
	外部評価等	なし
今後の予定・展望		平成18年度 FD報告書を電子媒体でまとめる。